

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第2部門第5区分
【発行日】平成26年3月13日(2014.3.13)

【公開番号】特開2012-206530(P2012-206530A)
【公開日】平成24年10月25日(2012.10.25)
【年通号数】公開・登録公報2012-044
【出願番号】特願2011-71410(P2011-71410)
【国際特許分類】

B 6 2 J 37/00 (2006.01)

B 6 2 K 11/00 (2013.01)

【F I】

B 6 2 J 37/00 B

B 6 2 K 11/00 A

【手続補正書】
【提出日】平成26年1月27日(2014.1.27)
【手続補正1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項1】

ヘッドパイプ(2)から後方に左右一対で伸びて内燃機関(11)を左右から懸架するフレーム(4)を有する自動二輪車(1)に搭載され、前記内燃機関(11)のシリンダ(24)周辺に配置される自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造において、

側面視で、前記一対のフレーム(4)と少なくとも一部が重なるように、前記フレーム(4)と前記内燃機関(11)との間にキャニスタ(26)が配置されることを特徴とする自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【請求項2】

前記キャニスタ(26)は、一対のフレーム(4)間に渡した幅広の支持ステー(45)にて支持されることを特徴とする請求項1に記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【請求項3】

前記支持ステー(45)は、フレーム(4)に対する取付け用の腕部(46,47)を前後左右に複数個所有し、キャニスタ(26)以外の他の補機も支持することを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【請求項4】

前記支持ステー(45)を、前記フレーム(4)に取付けるに際して、弾性緩衝部材(57)を介して取付け部(48,49)に取付けたことを特徴とする請求項1乃至請求項3の何れかに記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【請求項5】

前記キャニスタ(26)は前記支持ステー(45)によって上下で支持されることを特徴とする請求項1乃至請求項4の何れかに記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【請求項6】

前記キャニスタ(26)は筒状弾性部材(36)を介して上下で支持ステー(45)の保持部(45B)によって保持されることを特徴とする請求項5に記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【請求項7】

キャニスタ(26)の外周には、弾性支持に用いる筒状弾性部材(36)を嵌め込む嵌合溝(35)

が設けられ、同嵌合溝(35)の入口側の縁に傾斜面(37)が設けてあることを特徴とする請求項6に記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【請求項8】

前記キャニスタ(26)の上方には荷室(17)が設けられ、この荷室(17)内の収納ケース(20)と前記支持ステー(45)との間に、前記支持ステー(45)によって支持される補機としてバッテリー(21)が配置されていることを特徴とする請求項3乃至請求項7の何れかに記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【請求項9】

前記キャニスタ(26)の前方に内燃機関(11)に接続される吸気装置(66)が設けられ、同吸気装置(66)とシリンダ(24)とクランクケース(14)とで囲まれる領域に、キャニスタ(26)が配置されていることを特徴とする請求項1乃至請求項8の何れかに記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

請求項3に記載の発明は、請求項1又は請求項2に記載の自動二輪車(1)のキャニスタ(26)の配置構造において、

前記支持ステー(45)は、フレーム(4)に対する取付け用の腕部(46,47)を前後左右に複数個所有し、キャニスタ(26)以外の他の補機も支持することを特徴とするものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

請求項4の発明において、

前記支持ステー(45)を、前記車体フレーム(3)に取付けるに際して、弾性緩衝部材(57)を介して車体フレーム(3)の取付け部(48,49)に取付けてあるので、支持ステー(45)やキャニスタ(26)が、車両振動と共振することを防止できる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

請求項8の発明において、

前記キャニスタ(26)と荷室(17)内の収納ケース(20)との間のデッドスペースを利用して、重量物のバッテリー(21)を配置することができる。

タ(26)が、車両振動と共振することを防止できる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

図2(c)のxには、図2(a)のX-X矢視で示される断面が表示してある。キャニスタ26の前部外面には小さい突起38が形成されており、この突起38は上記筒状弾性部材36

の位置決めに用いられるものである。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0040

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0040】

以上詳述したように、上記実施形態においては次のような効果がもたらされる。

(1) キャニスタ26は、車両の側面視で、一对のメインフレーム4と一部が重なるようにして、メインフレーム4と内燃機関11との間に配置されている。キャニスタ26の前面をシリンダ24で、側方をメインフレーム4で覆うことによって、キャニスタ26の保護が可能となるだけでなく、エンジン13及びメインフレーム4を保護部材として利用するので、専用保護部材が不要となり、部品点数の増加を抑制することができる。

(2) キャニスタ26は、一对のメインフレーム4間に渡した幅広の支持ステー45によって支持されるので、強固に支持される。

(3) 上記支持ステー45は、車体フレーム3に対する取付け用腕部46、47を前後左右に4個所有し、キャニスタ26以外の他の補機も支持することができるので、それらの他の補機のための専用支持部材が不要となり、部品点数の削減が可能となる。

(4) 上記支持ステー45を、前記車体フレーム3に取付けるに際して、弾性緩衝部材57を介して車体フレーム3の取付け部48、49に取付けてあるので、支持ステー45やキャニスタ26が、車両振動と共振することを防止できる。

(5) 前記キャニスタ26は前記支持ステー45の保持部45Bの上下のアーム55、56によって上下で保持されるので、キャニスタ26の支持剛性を高くすることができる。

(6) 前記キャニスタ26は筒状弾性部材36を介して上下で支持ステー45のアーム55、56によって保持されるので、確実に緩衝保持される。

(7) キャニスタ26の外周には、弾性支持に用いる筒状弾性部材36を嵌め込む嵌合溝35が設けられ、同嵌合溝35の入口側の縁に傾斜面37が設けてある。これによって、筒状弾性部材36を嵌合溝35に嵌め込み易くすることができる。

(8) 前記キャニスタ26の上方には荷室17が設けられ、この荷室17内の収納ケース20と前記支持ステー45との間に、前記支持ステー45によって支持される補機としてバッテリー21が配置されている。これによって、キャニスタ26と収容ケース20との間のデッドスペースを利用して、重量物のバッテリー21を配置することができる。

(9) 前記キャニスタ26の前方に内燃機関11に接続される吸気装置66が設けられ、同吸気装置66とシリンダ24とクランクケース14とで囲まれる領域に、キャニスタ26が配置されている。キャニスタ26を内燃機関11周辺のデッドスペースを有効且つ積極的に利用して配置できると共に、キャニスタ26から上記吸気装置66へ向かうパージホース62を短縮することができる。